

感謝の気持ち

校長 荻野 秀和

新年明けまして、おめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

2学期の終業式で、子どもたちにお話したことをお伝えします。

今や世界的な企業になったホンダの創始者である本田宗一郎についてのお話です。

1906年に静岡県で生まれた宗一郎は、16歳で車の修理を行うアート商会で修理の腕を上げました。6年後には独立し、益々仕事に励みます。しかし、戦争で全てを失います。そこで新たに1946年に立ち上げたのが本田技術研究所です。始めは自転車にエンジンをつけた商品でしたが、これが大ヒット商品になり、オートバイを製造販売するようになります。毎年行われるイギリスのマン島でのオートバイレースでは、1961年の大会で125ccクラスと250ccクラスで1位から5位までをホンダが独占するという快挙を成し遂げました。自信をつけた宗一郎は自動車の製造に力をいれました。ホンダ最初の自動車は1963年に売り出したT360という軽トラックでした。その後のホンダの成長は皆さんの承知の通りです。

本田宗一郎はエピソードに事欠きません。藍綬褒章を受章し皇居での伝達式に参加することになった宗一郎は、職人の正装はツナギだという信念のもと白のツナギで皇居に行こうとしたのを社員たちから止められ、渋々燕尾服で出席しました。また、本部の幹部会議の昼食で社長である宗一郎の昼食はお膳に並べられた豪華な食事でしたが、他の社員が弁当を食べることを知ると、「俺も弁当を食べる」と他の幹部と同じ弁当を食べたことなどです。

社長としては働き盛りの66歳、宗一郎は社長を辞め、日本全国、世界に700箇所もあるホンダの販売店、修理工場をまわり、社員と握手し、「いつもありがとう」と声をかけ感謝の意を伝えました。ある工場の社員が油まみれの手では宗一郎と握手できないと手を洗いに行こうとしたとき、宗一郎それを止め油まみれの手で握手をしたそうです。

子どもたちは2学期や昨年、様々な活動をしてきました。保護者や地域の方々力を借りながらの活動もたくさんありました。協力してくださった方々に感謝の気持ちをもってほしいと思います。宗一郎のように全員と握手はできませんが、その気持ちで感謝の心をもってほしいと思います。